

# 株式会社 アプリックス

## 平成19年12月期第1四半期

### 注意事項

本資料には、2007年5月15日現在の当社及び当社グループの将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想が含まれておりますが、その性質上、国内外での経済動向・市場の需要・為替レート・税制等の制度変更といった潜在的リスクや不確定要素によって変動する可能性が存在します。当社は、このような情報内容を保証するものではなく、株主および投資家の皆様がこのような情報を使用したことより生ずるいかなる損害についても責任を負うものではありません。

この資料に含まれる金額は、注記がない限り単位未満桁の数値を切り捨てております。



代表取締役会長 最高経営責任者

郡山 龍

代表取締役社長 最高執行責任者

関野 正明

山科 拓

このような形になり、大変申し訳ございません。

今回のフレームワーク事業の特別損失につきまして、市場環境が大きく変化する中で、当社の経営判断が甘かったため、短期での収益化が容易ではない状況となり、販売計画について保守的な方針を採ることといたしました。

そのため、このような特別損失が発生する形となり、お約束していた収益の達成が困難になり、経営陣およびスタッフ一同、大変深く反省しております。

なお、フレームワーク事業については、まったく中止してしまうのではなく、引き続き収益化を図ってまいりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

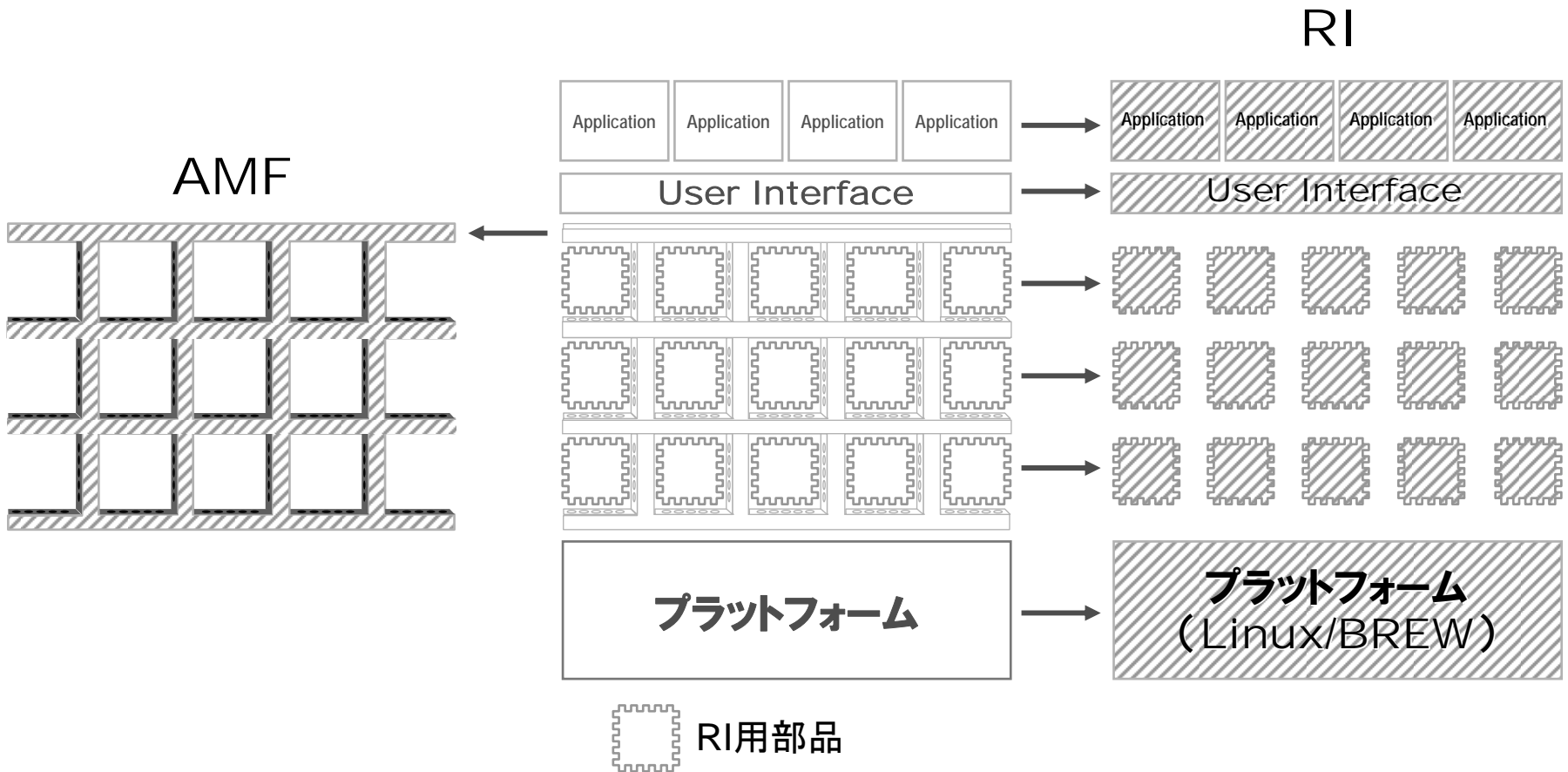
特別損失(連結)      無形固定資産除却損      7,600百万円

**状況**      携帯電話機メーカーの事業状況および事業体制などの急激な変化や製品計画の変更などにより、当面は当社の製品を搭載した製品の出荷が見込めない状況となりました。

**反省**      携帯電話機メーカーの製品計画が確定しない状況下で、開発投資を抑制する判断の遅れが損失金額を大きくしてしまった事に関して、経営陣として重く認識しております。

**今後**      開発済みのソフトウェアや技術については、携帯電話機メーカーの製品開発コストの削減や工期短縮に十分貢献できるレベルに達しております。  
よって、引き続き営業活動を続け、受注が出来た際には製品開発を再開したいと考えております。  
また、市場性のある要素技術の開発に関しては通常の研究開発費で賄える範囲内で継続して行きます。

要素技術のAMFは研究開発を継続  
RIは受注後に製品開発を再開



特別損失(単体のみ)      子会社株式評価損      7,600百万円

**状況**      第三世代携帯電話の免許割り当ての遅れ等により中国市場が未だに立ち上がらず、売上増に結びついていません。

昨年末ロイヤリティ売上が増加したことにより回復基調にあると判断しましたが、今四半期の結果を鑑み、今後もしばらくは厳しい状況が続くと見えています。

**反省**      中国市場に関する判断が間違っていた事に関して、経営陣として重く認識しております。

**今後**      中国および台湾において確保した優秀な技術者を活用することにより、グループ全体の生産性向上とコスト削減に努めながら、中国市場の立ち上がりに合わせて営業活動を行っていきます。

## 山科 拓

5月15日付けで取締役および執行役員(最高財務責任者)を辞任  
6月末で退職予定

## 吉本 晃

5月15日付けで執行役員(執行役員)を辞任  
6月末で退職予定

郡山龍と関野正明の二人が、協力して事業体制の再構築に取り組  
みます。

当面のIR活動は郡山龍が担当していきます。

売上	主要顧客の業績等を鑑みJava関連で6億円の減 フレームワーク関連で9億円の減
原価	フレームワーク関連事業の見直しで約3億円の増加
販管費	フレームワーク関連事業の見直しに伴う研究開発費の増加および製品計画やマーケティングなどの開発と営業に対する牽制機能の拡充等、事業再編成に伴い計画を全面的に見直し、去年の実績に対して予備費を含め6億円増
特別利益	投資先株式の売却による



仕事の失敗は、仕事で取り返す所存でございます。

今回財務面から見たバランスシート・リスクは全て落としており、DoCoMoと共同で開発している次世代Javaの\* project(スタープロジェクト)に対応したJBlendやJBlend[nano]等のJBlendファミリーの他、USVMなど優れた技術が育ってきていますので、当面は大きな開発投資があまり掛からないこれらの要素技術に特化して、利益をきちんと出して行く体制を作り、その上で株式市場からの信頼を取り戻したいと考えております。

また、フレームワーク事業につきましても、プラットフォームに対する収益機会は失われていないと考えており、投資負担を最小限に抑えながら、引き続き、収益化を目指して市場調査ならびに研究を続けてまいる所存です。

# 第1四半期ハイライト



## ■ 事業進捗状況

- JBlend出荷台数: 約2,960万台
  - 前年同期比約4.5%の減
  - 累計出荷台数は約3億3,336万台
- 携帯電話向けJava
  - 海外向けで各メーカーの生産調整の影響を大きく受ける
  - 国内向けは総じて順調な出荷

## ■ 第1四半期業績

- 売上高: 977百万円
- EBITDA: △571百万円
- 営業損益: △737百万円
- 経常損益: △667百万円
- 当期損益: △8,306百万円

## ■ AMF事業

- 顧客都合により、年内の出荷は困難に
- 第1四半期までのソフトウェア仮勘定を一括除却
- 第1四半期までの仕掛品を原価算入

# 四半期業績



## ■ 第1四半期の主なポイント

- ロイヤリティ収益が好調
- AMF事業の縮小に伴い、仕掛品4億円弱を原価に一括算入

	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期	2006年 7-9月期	2006年 10-12月期	2007年 1-3月期
売上高 (前年比)	1,018 74.3%	2,435 95.7%	1,617 15.6%	1,518 -15.8%	977 -4.0%
売上原価	1,035	817	777	827	1,064
粗利益 (粗利率)	(17) -1.7%	1,618 66.5%	840 51.9%	690 45.5%	(87) -8.9%
販売費および一般管理費	1,755	1,491	500	836	650
連結調整勘定償却	923	923	0	0	0
販管費	832	568	500	836	650
(のれん代を除く営業費用)	1,867	1,384	1,278	1,663	1,714
営業損益	(1,771)	126	340	(145)	(737)
経常損益	(1,775)	158	421	(72)	(667)
当期損益	(1,445)	(357)	201	(7)	(8,307)
EBITDA (EBITDAマージン)	(694) -68.1%	1,324 54.4%	516 31.9%	536 35.3%	(571) -58.5%
連結調整勘定償却前営業利益 (償却前利益率)	(848) -83.3%	1,049 43.1%	340 21.0%	(145) -9.6%	(737) -75.4%
減価償却	154	275	177	681	165
連結調整勘定償却	923	923	0	0	0

(単位:百万円)

# 売上高



## ■ 売上高の内訳

- 製品別：技術支援売上が一巡、製品売上は好調
- 地域別：前年同期とほぼ同様の傾向

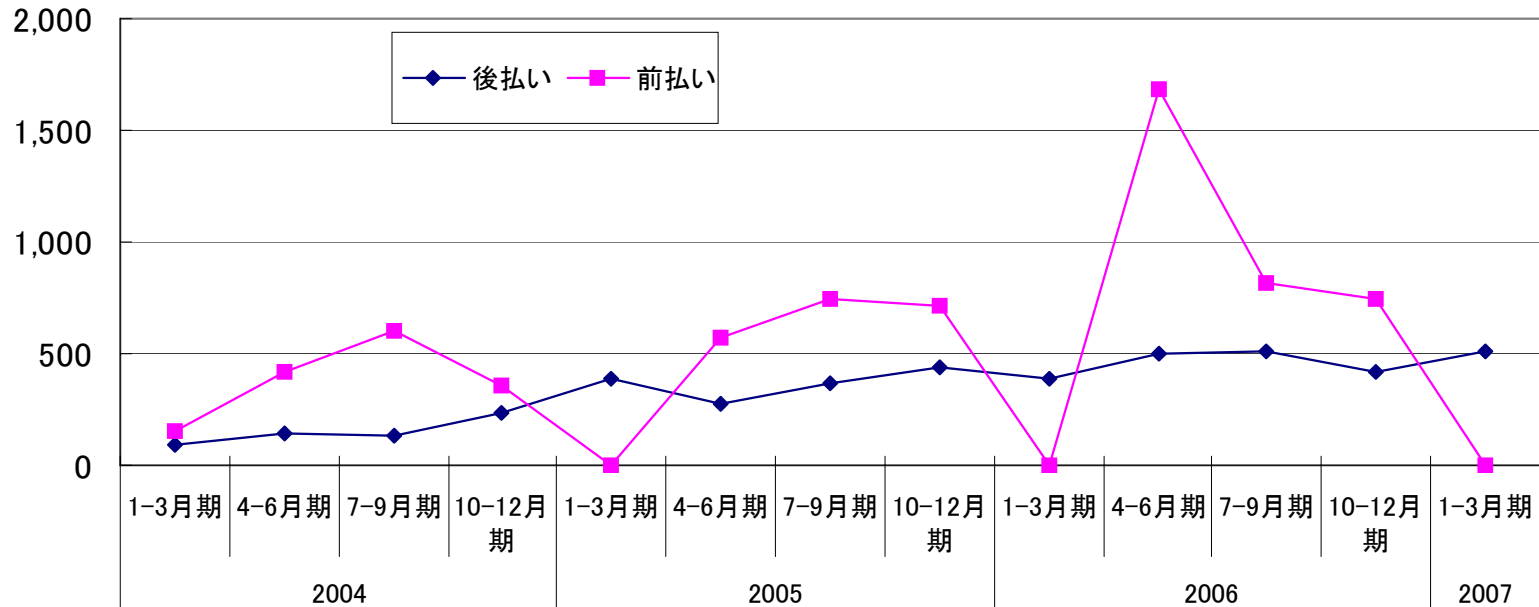
	2006年 1-3月期		2006年 4-6月期		2006年 7-9月期		2006年 10-12月期		2007年 1-3月期	
	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率
携帯電話関連	993	97.5%	2,409	99.0%	1,593	98.5%	1,498	98.7%	952	97.5%
うち製品売上	389	38.2%	2,206	90.6%	1,341	82.9%	1,167	76.9%	516	52.8%
うち技術支援	590	57.9%	188	7.7%	241	14.9%	315	20.8%	417	42.7%
うちその他	13	1.3%	27	1.1%	0	0.0%	16	1.0%	19	2.0%
携帯電話以外	24	2.4%	26	1.1%	24	1.5%	21	1.4%	25	2.5%
うち製品売上	23	2.3%	19	0.8%	19	1.2%	20	1.3%	17	1.8%
うち技術支援	0	0.0%	7	0.3%	5	0.3%	1	0.0%	6	0.7%
うちその他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%
合計	1,018	100.0%	2,434	100.0%	1,618	100.0%	1,518	100.0%	977	100.0%
ライセンス/ロイヤリティ		40.5%		91.4%		84.1%		78.2%		54.6%
サービス		57.9%		8.0%		15.2%		20.8%		43.3%

	2006年 1-3月期		2006年 4-6月期		2006年 7-9月期		2006年 10-12月期		2007年 1-3月期	
	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率	売上高	比率
日本	889	87.3%	610	25.1%	656	40.6%	853	56.2%	910	93.2%
北米	8	0.8%	1,693	69.5%	828	51.2%	25	1.7%	12	1.2%
欧州	1	0.1%	4	0.2%	3	0.2%	28	1.8%	7	0.7%
アジア	120	11.8%	127	5.2%	131	8.1%	612	40.3%	48	4.9%
合計	1,018	100.0%	2,435	100.0%	1,617	100.0%	1,518	100.0%	977	100.0%

(単位：百万円)

## ■ 前払いロイヤリティと後払いロイヤリティ

- 後払い: 安定的に増加
- 前払い: 例年同様、第1四半期は低水準



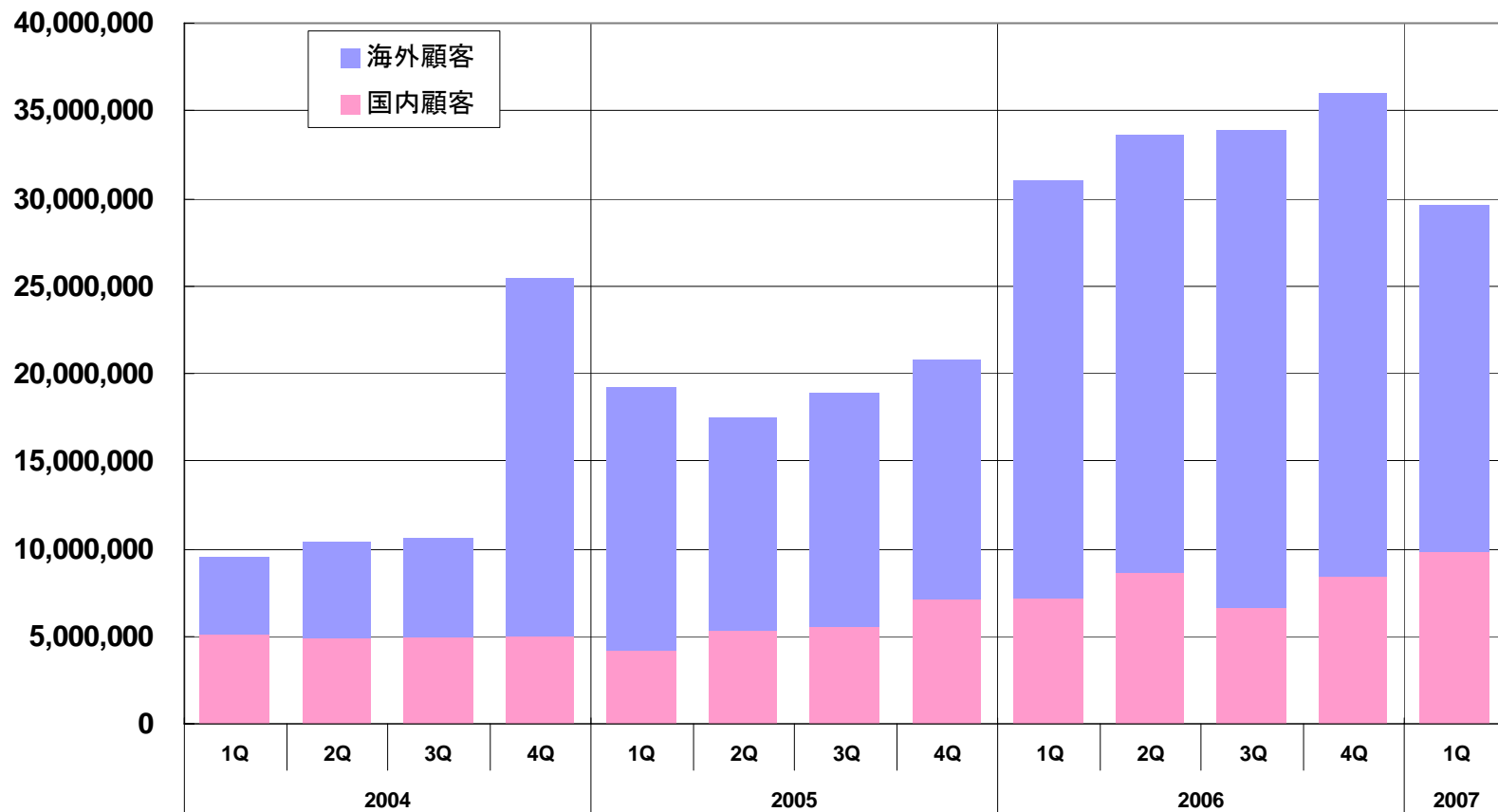
	2004				2005				2006				2007
	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期
後払いロイヤリティ	87	147	132	230	389	277	371	439	383	498	508	414	514
前払いロイヤリティ	153	419	607	361	0	571	744	715	0	1,684	821	741	0
ロイヤリティ合計	240	567	740	591	389	848	1,116	1,154	383	2,182	1,329	1,155	514

(単位: 百万円)

# 出荷台数の動向



## ■ JBlend出荷台数



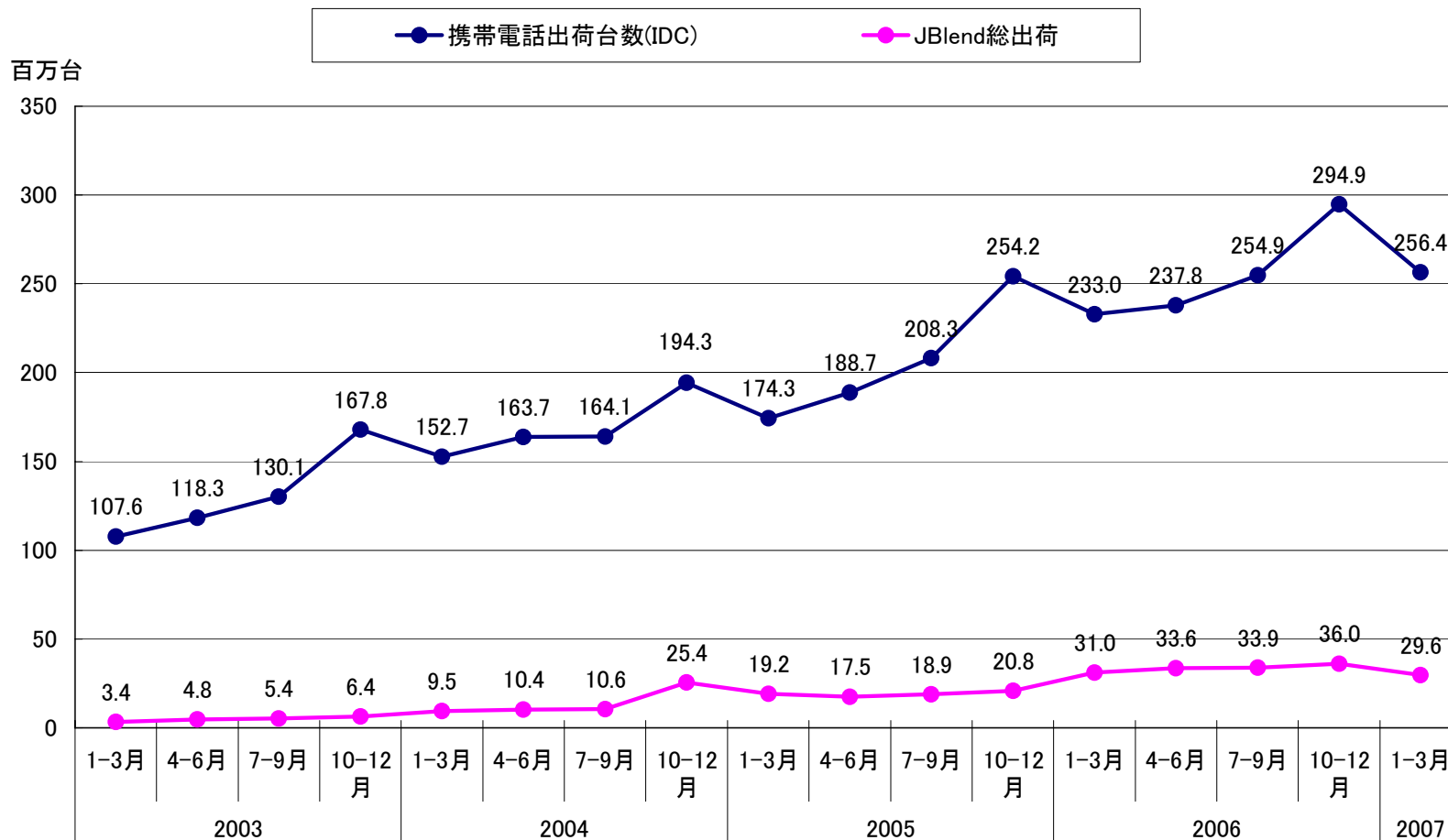
	2004年				2005年				2006年				2007年
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
国内顧客向け	5.0	4.9	4.9	4.9	4.2	5.3	5.4	7.0	7.1	8.6	6.6	8.4	9.8
海外顧客向け	4.4	5.4	5.6	20.4	14.9	12.2	13.4	13.7	23.8	24.9	27.2	27.5	19.7
合計	9.5	10.3	10.6	25.4	19.2	17.5	18.9	20.7	30.9	33.5	33.8	35.9	29.5
累計	46.5	56.8	67.5	92.9	112.1	129.6	148.5	169.2	200.2	233.8	267.7	303.7	333.3

# 出荷台数の動向



## ■ グローバル市場

- Java端末市場環境に大きな変動はない
- 市場シェアに大きな変動はない



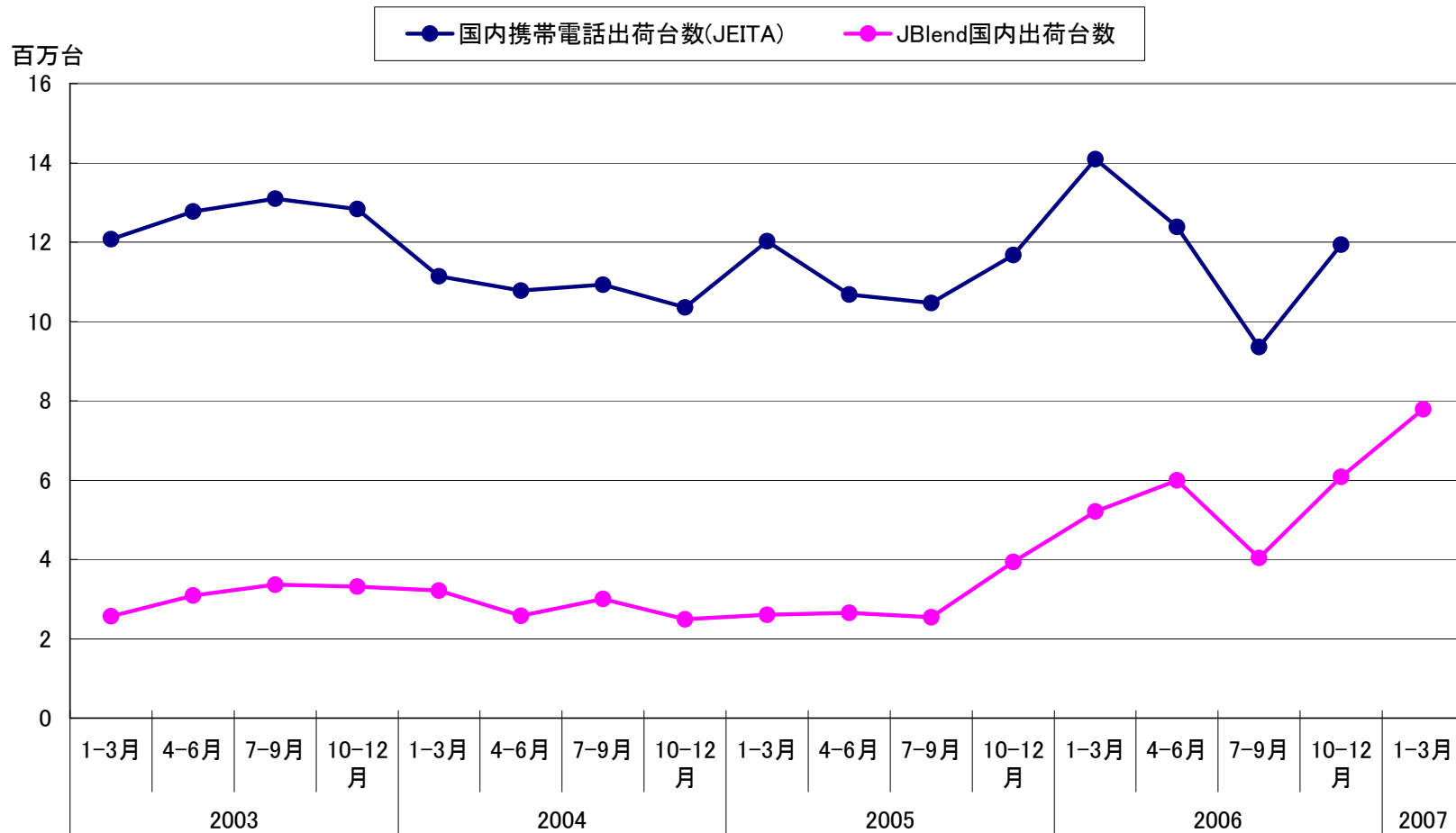
注) 携帯電話出荷台数にはJavaを搭載していない端末も含まれます

# 出荷台数の動向



## ■ 日本市場

- Java搭載比率は60%超 - 四半期で約800万台
- 市場全体に回復感が見られる



注) 国内携帯電話出荷台数にはJavaを搭載していない端末も含まれます



## ■ 第1四半期の主なポイント

### ■ フレームワーク事業の見直し

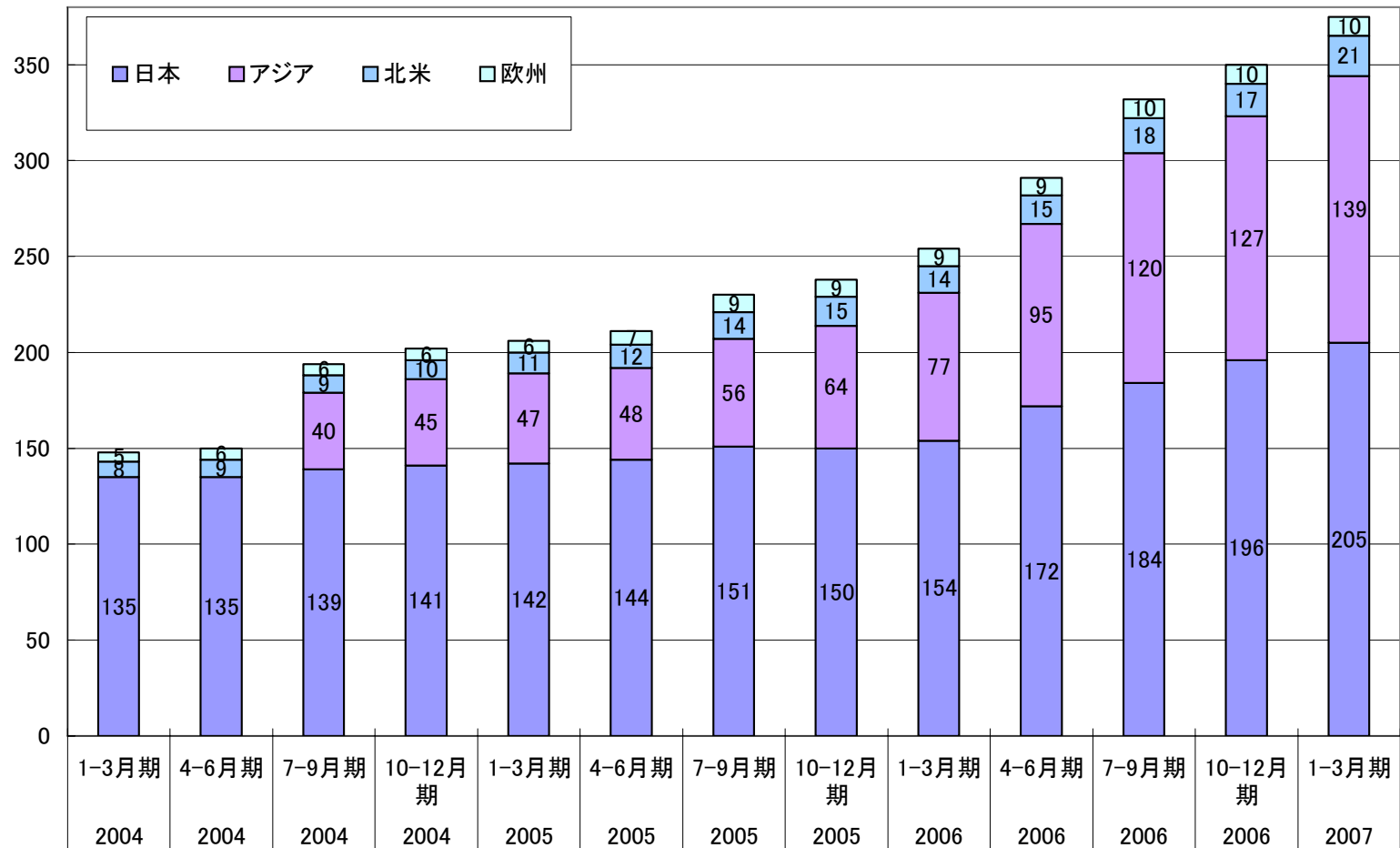
- 外注費増加:原価増
- 他勘定振替:ソフトウェア仮勘定へ計上したもの→特別損失として除却

	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期	2006年 7-9月期	2006年 10-12月期	2007年 1-3月期
売上原価	1,035	817	777	827	1,064
人件費	254	286	348	367	387
外注費	1,203	800	1,373	1,828	3,195
ロイヤリティ	130	175	139	306	149
減価償却費	147	267	170	69	160
その他	155	155	177	204	269
(製造費用計)	1,889	1,683	2,207	2,773	4,160
仕掛増減	96	49	59	(154)	152
他勘定振替	(950)	(916)	(1,489)	(1,792)	(3,248)
販売管理費(連結調整勘定償却を除く)	832	568	500	836	650
人件費	226	251	229	232	270
研究開発費	350	66	73	377	118
減価償却費	7	7	7	7	6
その他	249	244	192	221	256
合計(連結調整勘定償却を除く)	1,867	1,384	1,277	1,663	1,714
連結調整勘定償却	923	923	0	0	0

(単位:百万円)

## ■ 従業員数の推移

- 第1四半期末で375名
- 引き続きアジア地域での増員が主



## ■ 第1四半期の主なポイント

### ■ AMF関連ソフトウェア仮勘定の除却に伴う資産圧縮

	2006年12月期 期末	2007年12月期 第1四半期末
流動資産	11,793	8,386
現預金	6,009	4,212
有価証券	2,808	2,810
売掛金	2,057	539
棚卸資産	162	10
繰延税金資産	69	61
その他	622	782
貸倒引当金	(34)	(28)
固定資産	12,034	7,976
有形固定資産	166	195
無形固定資産	5,746	1,341
ソフトウェア	865	963
ソフトウェア仮勘定	4,865	363
連結調整勘定	0	0
その他	16	15
投資その他の資産	6,122	6,440
投資有価証券	5,920	6,230
その他	202	210
資産合計	23,728	16,363

	2006年12月期 期末	2007年12月期 第1四半期末
流動負債	2,539	2,589
買掛金	1,332	1,858
短期借入金	0	0
1年以内返済予定長期借入金	0	0
未払金	829	441
未払法人税等	102	17
その他	277	273
固定負債	222	575
少数株主持分	0	0
純資産合計(資本合計)	20,966	13,198
資本金	13,252	13,259
資本剰余金	14,167	14,174
利益剰余金・その他	(6,453)	(14,235)
負債・少数株主持分・資本合計	23,728	16,363

(単位: 百万円)

- 第1四半期の主なポイント
  - 除却損に伴う増減が高水準
  - 売掛金の減、買掛金の増による変動

	2006年 1-3月期	2006年 4-6月期	2006年 7-9月期	2006年 10-12月期	2007年 1-3月期
営業活動によるキャッシュフロー	467	536	1,018	(1,386)	2,198
税前損益	(1,772)	75	421	(73)	(8,276)
連結調整勘定償却	923	923	0	0	0
減価償却費	154	275	177	75	165
法人税等支払額	(392)	70	(216)	25	69
その他	1,554	(807)	636	(1,413)	10,239
投資活動によるキャッシュフロー	(7,711)	(195)	(3,107)	1,091	(4,240)
投資有価証券の取得・売却	(7,303)	837	(1,714)	1,992	372
子会社株式の取得	0	0	0	0	0
その他	(408)	(1,031)	(1,392)	(900)	(4,612)
財務活動によるキャッシュフロー	(123)	(226)	17	(2)	(123)
株式発行による資金調達	4	3	25	5	13
有利子負債の増減	(127)	(228)	(8)	(8)	0
その他	0	(1)	(0)	0	(136)
為替調整	(8)	(30)	60	52	(8)
現金・現金同等物残高の増減	(7,376)	(709)	(1,216)	(245)	(1,974)
現金・現金同等物の期末残高	9,732	9,023	7,807	7,561	5,588

(単位:百万円)



株式会社 アプリックス

[www.aplix.co.jp](http://www.aplix.co.jp)